

「やすらぎ歩行空間プラン」～旧国道 36 号の地域資源を活用した歩行空間の創出に向けて～

<概要版>

古くから地域の生活を支えてきた旧国道 36 号(旧道)は、清田区の発展を語る上で欠かすことのできない大切な道です。このうち、北野 1 条 2 丁目から清田 1 条 1 丁目の区間は、歩道の外側に広い敷地や桜並木があるなど、素晴らしい空間になる可能性を秘めています。これらの特長を生かし、歩行者が心地よく利用できることをめざした将来像を、このほど「やすらぎ歩行空間プラン」としてまとめました。平成 21 年 5 月から、公募を含めた 12 人の区民等による検討会を 7 回、ワークショップを 4 回行うなど何度も意見交換を重ね、取りまとめたプランの概要をご紹介します。

【プランの基本方針】

「やすらぎ歩行空間」の実現に向け、以下の 5 項目を基本的な方針として掲げました。

<基本方針>

- ①やすらぎを感じられる美しい景観の形成
桜並木などの既存樹種を生かし、だれもがやすらぎを感じられる美しい景観をめざしましょう。
- ②みどりと親しむための空間の形成を
拠点となる場所に花壇や低木が植えられていて、多くの人たちがふれあえる空間をめざしましょう。
- ③安心して歩き、憩うことができる空間の形成を
遊歩道スペースの凹凸の解消や憩いのスペースの創設など、だれもが安心して歩き、そして憩うことのできる「みち」をめざしましょう。
- ④歴史情報の発信を
旧道に関する歴史や文化の発信など、長く親しまれてきた旧道を再認識できる「みち」をめざしましょう。
- ⑤歩く楽しみを感じられる工夫を
歴史や自然を生かしたウォーキングコースの設定など、歩いて楽しい「みち」をめざしましょう。

【主要となる空間】

区間の形状や特徴を考慮し、以下の 6 つの場所を主要空間とし、その性格付けを考えました。

<6 つの主要空間>

- ①前坂の擁壁 ～ 歴史ゾーン
- ②坂下の広場 ～ 憩い・やすらぎゾーン
- ③清田通交差点 ～ フラワーゾーン
- ④コカ・コーラ社西側 ～ 桜並木ゾーン
- ⑤コカ・コーラ社東側 ～ 集い・語らいゾーン
- ⑥国道 36 号からの出入口 ～ 情報発信ゾーン

【主要空間の将来イメージ像】(※以下に掲載のイラスト等はイメージであり、確定した内容ではありません。)

<①前坂の擁壁> ～歴史ゾーン～



擁壁周辺は「前坂」と呼ばれた急勾配の難所で旧道の入口として大事な場所です。そのため、旧道の歴史を伝えるゾーンとして活用していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・前坂の由来や清田の歴史を伝えるプレートなどの設置
 - ・蔦類などの緑によるやすらぎの演出
 - ・坂道を歩く人が一休みできる場の提供

<②坂下の広場> ～憩い・やすらぎゾーン～



坂下の北側の広場的な歩道・緑地空間を、誰もが憩い、やすらげるゾーンとして活用していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・ベンチなどの休憩施設の設置
 - ・桜の木の下へのスポット的な花壇や植え込みの設置
 - ・車椅子や乳母車が安全に通行できる歩行空間のバリアフリー化

<③清田通交差点> ～フラワーゾーン～



最も車が行き交う場所であるため、フラワーゾーンとしてより良い景観づくりや、やすらぎを演出していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・交差点付近にフラワーポットなどを設置

<④コカ・コーラ社西側> ～桜並木ゾーン～



広い遊歩道スペースに桜の木が二列植栽され、区間の中で最も桜を美しく感じられる場所です。
並木の下を散歩できる桜並木ゾーンとして活用していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・桜の木の補植
 - ・安心して歩くことのできる樹下散歩路の整備
 - ・スポット的な花壇や灌木植栽の導入

<⑤コカ・コーラ社東側> ～集い・語らいゾーン～



広い遊歩道スペースに桜が植栽されており、人々が集い・語らうゾーンとして活用していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・桜の木の補植と、間に人が溜まれる空間の確保
 - ・旧道の歴史を伝えるプレートなどの設置
 - ・歴史を語り継ぐイベント等の開催
 - ・コカ・コーラ社等、周辺企業との協力による取組みの展開

<⑥国道 36 号からの出入口> ～情報発信ゾーン～



情報発信ゾーンとして位置付け、旧道の歴史的価値を発信していくことが考えられます。

- <主な展開方法>
- ・旧道の道しるべやサインなどを設置

